

来週の市場とレート予想

	8/21(月)	8/22(火)	8/23(水)	8/24(木)	8/25(金)
無担保O/N	△0.086% ~ 0.001%				
銀行券	+ 800	ト ン	ト ン	ト ン	△ 1,000
財政他	△ 48,200	+ 1,000	△ 2,000	△ 14,000	△ 1,000
資金需給	△ 47,400	+ 1,000	△ 2,000	△ 14,000	△ 2,000
主な要因	国債発行(5Y) 国庫短期証券発行・償還 (3M・1Y)		交付税特会借入・償還	国債発行(20Y)	
オペ期日	共通担保(全店) △ 1,300 CP等買入 △ 100				
オペスタート	共通担保(全店) + 1,500	国債買入 + 10,500 短国買入 + 7,500 CP等買入 + 3,000			
(日本)	百貨店売上高(7月) コンビニエンスストア売上高(7月)	日本銀行が保有する国債 の銘柄別残高 日本銀行による国庫短期 証券の銘柄別買入額 日銀営業毎旬報告 (8月20日現在)			CPI(7月全国、8月都区部)
(海外)		米 トランプ大統領、集会に出席 (アリゾナ州)	米 グラス連銀総裁講演 米 新築住宅販売件数(7月) 欧 ユーロ圏総合PMI (8月、速報値) 欧 ドラキ ECB総裁講演 (ドイツ・リンダウ)	米 週間新規失業保険申請件数 (19日終了週) 米 ジャクソンホール会議 (カンサスシティ連銀開催 26日まで) 英 GDP(4-6月、改定値)	米 イエレンFRB議長講演 (ジャクソンホール会議) 米 耐久財受注(7月) 独 Ifo景況指数(8月)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.045 ~ 0.001
SPOT 2M	△0.02 ~ 0.001
SPOT 3M	△0.02 ~ 0.001
SPOT 6M	△0.01 ~ 0.001

＜インターバンク＞

日銀当座預金残高は週初、先週末対比4,300億円増加の357兆6,300億円から始まった。その後は短国・国債買入オペを主因に増加の一途をたどり、週末には364兆9,900億円となった。  
無担保コールO/N物は、15日の積最終日まで調達需要が強含み、14日、15日の同加重平均金利は△0.028%、△0.026%となった。一方、新積期となる16日以降はビットサイドが慎重となったことから、同加重平均金利は△0.052~△0.047%で推移した。  
ターム物は1~2W物を中心に、主に△0.05%~△0.035%の出が見られた。  
14日に発表された4-6月期のGDPは、年率4%の増加となり、11年ぶりの6期連続プラス成長だった。年率4%の増加は、2015年1-3月期の同4.8%増以来で、2年3か月ぶりとなった。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	マイナス ~ 0.001
TDB 3M	△0.140 ~ △0.120
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

＜CP＞

今週の入札発行総額は約2,900億円で、週間償還額の約2,600億円(金融機関・ABCP除く)を若干上回った。週初は、夏季休業となった企業も多くやや閑散な商状となったが、夏季休暇明けにはまとまった額での発行案件が見られた。発行レートは概ね0%近辺での出合いであったが、一部銘柄で強めの札が見られ低下余地を探る動きも窺えた。17日のCP等買入オペの結果は、足切レート△0.035%、平均レート△0.014%、案分率16.7%と、前回比で大幅に低下する動きとなった。  
来週の償還額は、4,800億円程度となっている。夏季休暇明けで、事業法人の発行ニーズが旺盛な事と5・10日発行もあり、償還超となることが予想される。  
発行レートは、投資家の運用ニーズの強さからも、引き続きマイナスから0%近辺での出合いとなるだろう。

＜TDB＞

16日に国庫短期証券1Y第702回債の入札が行われ、最高落札レート△0.1251%(前回債△0.1138%)、平均落札レート△0.1281%(同△0.1158%)と前回債からレートが低下した。また、17日に行われた3M第701回債も最高レート△0.1243%(前回債△0.1082%)、平均レート△0.1275%(同△0.1110%)と前回債から低下した。セカンダリー市場も良好な需給に支えられて堅調な地合で、3Mが△0.138%、1Yが△0.144%と入札水準より強めの出が見られている。

＜レポ＞

週初の日付GCは△0.08%近辺から始まったが、TNIにかけて△0.10%近辺まで低下。以降は週を通して概ね△0.095%~△0.10%が出合いの中心となり、国庫短期証券の発行が重なった21日受渡してもレートの上昇は見られなかった。  
SC取引では、5年132回債は週初△0.30%台半ば~△0.40%近辺、入札日前日の18日受渡しては△0.50%近辺の出合いも見られた。10年347回債も週を通してbidが多く、18日の日銀国債買入オペ後△0.15%近辺の取引が一部見られた。その他2年377・378回債、5年131、10年333・334・335・336・338・339・340・341・342・343・344・345・346回債、20年160・161回債、30年54・55回債、40年10回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。